

京師帝國大學法學科大學

經濟論叢

第三卷 第二號

論說

國防稅ノ本質

でがめつぎ・ひゆーむノ經濟學說(四)

資本ノ眞概念ノ發展(二)

戰後ノ人口増加政策(二)

支那近代ノ戸口ニ就テ(三、完)

在外正貨ト兌換券ト關係ヲ論ズ

雜錄

服部氏ノ批評國際經濟論ニ對スル向井氏ノ批評

瀧本誠一氏ノ草莽危言摘義解題ニ就イテ

福田博士ニ答フ

戰時利得稅ノ諸學說及實例

英吉利ノ新稅

米國ニ於ケル船舶買收法案ニ就テ

經濟雜話第五

統計書ノ概說

らがれー「ミール」學說ノ研究(三)

「通俗經濟文庫」ノ刊行

「經濟大辭書」ノ完成

法學博士 神戶 正雄

法學博士 福田 德三

法學博士 河上 肇

米田庄太郎

文學博士 內藤虎次郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 河上 肇

法學博士 鈴木券太郎

法學博士 本庄榮治郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 河田 嗣郎

法學博士 岸本熊太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 財部 靜治

商學士 大塚金之助

法學博士 福田 德三

法學博士 神戶 正雄

(載 轉 禁)

大正五年八月一日發行

## 米國ニ於ケル船舶買收法案

二就テ

在米 岸本熊太郎

最近北米合衆國ニ於テ經濟上注目スヘキ一議案ガ現ハレタ。夫ハ船舶買收法案 (The Administration Shipping Bill) デアル。此ノ法案ハ五月二十日劇烈ナル反對アリシニ拘ラス、二百十一對一百六十一票ヲ以テ下院ヲ通過シテ、今ヤ元老院ニ移牒セラレテ居ル。願フニ同案ノ運命ハ今日ニテハ尙樂觀ヲ許ササルモノアリトハイヘ、之ニヨツテモ歐洲戰亂ノ結果トシテ米國ガ從來ノ民主的ノ政策ヲ多少改メカカツタ所ガ認メ得ラルルノデ重要ト信ズル。

同法案ノ主タル目的ハ其ノ提案者タル政府側ノ説明ニヨレバ、歐洲戰爭ノ開始サレテ以後ノ形勢ニ徴シ南米ト北米トノ貿易ヲ獎勵スルコトニアツテ、(此點ニ關シテハ經濟論叢第二卷第三號神戸博士南米經濟關係ト日支經濟關係參照) 其内容ハ政府ガ一億圓ヲ支出シテ(パナマ海峽ニ對シテ政府ノ所有スル公債ヲ賣却シテ其資金ニ充ツト云フ) 私有船舶ヲ買收シ又ハ借入レ又ハ新ニ船舶ヲ建造シ

テ、一旦政府ノ支配權ノ下ニ移シ、更ニ適當ノ私會社ニ之ヲ貸シ下ケ又ハ拂下ケテ海運業ヲ發達セシメントスルノデアル。換言スレバ投下セラレタル資本ハ政府ニ屬シ私會社ハ政府ノ貸下ニ對シ之カ利子ヲ仕拂フト云フ形ニヨルノデ、政府ガ自ラ海運ヲ營ムトイフノデハナイノデア。從ツテ本企圖ヲ實行スル曉ニ於テハ、今迄ノ如ク海上運送ニ對シテ政府ガ何等監督ヲナササリシノトハ異ナリ、新ニ海運監督院(The Shipping Board)ヲ設ケテ海上運送ニ關シテ必要ナル助言ヲ議會ニナサシメ、且海上運賃ハ勿論其他ノ營業上ノ事項ニ關シテモ海運業ヲ取締ラントスルモノデ、恰モ今日ノ各州間ノ鐵道運送ヲ聯合商事院(The Interstate Commerce Commission)ニ於テ取締ルト同シトニシヤウトスルモノデア。勿論之ニハ船舶業者、荷主側ノ反對ガアル。此議案ニハ「本案ノ實行後五ヶ年ヲ經過シタナラバ、政府ハ其支配權ノ下ニアル船舶ヲ全部私會社ニ拂下ケテ、本案海運ノ監督及指揮ヲモ止メヤウ」ト云フ附帶條件ガアル。蓋シ政府ノ見

込デハ其時ニ至ラバ米國ノ海運ハ政府ノ關涉ヲ待タズシテ發達ノ道程ニアルデアラウトイフニ在ル。

又本案ニヨレバ國家有事ノ秋ニ當リテハ、此ノ政府ノ支配權ノ下ニアル船舶ヲシテ義勇艦隊トシテ軍事上ノ用ヲナサシムルコトガ定メテアル。此ニヨリテハ米國海軍ヲ強大ナラシムルコト申ス迄モナキコトデア。併シ此ノ結果ハ寧ロ附屬的ノモノデアラウ。(大正五年五月二十三日 米國ふいらでるふいあニテ稿)